


ふりがな 氏名	たかはし みさき 高橋 美佐紀	都道府県 鳥取県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 ・ 青年環境 NGO Climate Youth Japan (COP23 派遣事業統括) 		
私のESD活動	大学四年間を通し、グローバルとローカルの両軸で ESD を含む環境活動、野外教育を実践しています		

活動の概要

グローバルレベルでは、青年環境 NGO Climate Youth Japan で、気候リーダーの育成と気候変動問題への関心を高めるユース向けのイベントを開催しています。事業は三つ(サステナリンピック[Sustainable+Olympic・Paralympic]事業、COP 派遣事業、国内アドボカシー事業)あり、直近では「オリンピックの持続可能性」について学ぶイベントや、マーシャル諸島の環境活動家をお招きした交流会を開催しました。イベントの基本的な流れは、専門家を講師として招き、ユースを交えたディスカッション後、アウトプットの場としてワークショップを行います。活動を始めたいユースが活動とつながる場、そして既に活動しているユースが他分野につながる場を提供することを意識し、オンラインベースで企画運営をしている団体です。また今年度は COP23 派遣事業の統括をしており、国際交渉の勉強会や専門家を交えたスキルアップ研修、海外団体との連携、COP23 への派遣(予定)を行い、少数精鋭を意識した気候リーダーの育成をしています。

そしてローカルなレベルでは、森のようちえんや、尼崎市立美方高原自然の家での学生リーダー、山陰海岸ジオパークで海の学校の運営補助をはじめとした野外教育活動を実践しています。幼少期の自然と触れ合う原体験が、自然を守りたいというマインドを育てると考えているためです。また、教育実習では道徳の授業内で「トトロの森」を題材とし、どこまで人間が自然に介入するのかを議論する ESD の授業を行いました。

○「Climate Youth Japan Facebook」 <https://www.facebook.com/climateyouthjapan>

今後の活動や協働への展望

近い将来、FAO や CIFOR といった森林系の国際機関、または国際環境 NGO の職員となり、インドネシアにおける林業を、破壊する林業から管理する持続可能な林業へと変えることに取り組みたいと思っています。特にインドネシアでは、パームオイル(ヤシ油)プランテーションによって多くの森が破壊されており、その大規模消費者である先進国民が、いかにエシカルな消費ができるかが鍵となっています。このような点で、どのような ESD を行えば、一般市民が「自身の消費活動」と「遠い熱帯雨林の破壊」をつなげて考えることができるのかを日々試行錯誤しているところであり、この活路が本イベントを通して少しでも見えることを私自身の成果としています。

また、本イベントでできるつながりも後々必ず役に立つと確信しています。今まで、解決したい社会問題に対して一つの観点から取り組むと行き詰ってしまうこと、そして、全く関係ないと思っていた分野の活動とつながることで新たな解決策・必要なソースにたどり着くことができることを、身をもって経験してきました。本イベント終了後も参加者とコンタクトをとり、お互いの活動に参加しあう関係を保ちたいと考えています。そして、私自身が気候リーダーの育成を Climate Youth Japan で担当しているということもあり、環境問題に興味のあるユースに対して気候変動に関する ESD を受ける機会を提供できると思います。